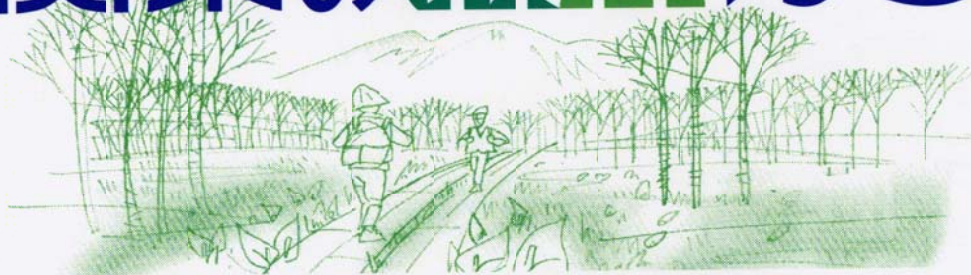


平成22年10月1日

第79号

# 関東の森林から



関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



御西小屋付近から飯豊連峰を望む（新潟県阿賀町）  
（提供者：下越森林管理署 大滝 芳廣）

## 関東森林管理局における森林整備事業について

森林整備部 森林整備課

## 私と国有林 「関東の森林で保育間伐」

もりもりいくそう隊 代表 斎藤 和利 氏

関東森林管理局における森林整備事業について

森林整備部 森林整備課



コンテナ苗木の植栽実演

造林及び保護事業

造林作業の低コスト化は、国有林・国有林共通の重要課題であり、当局では、平成21年度に福島森林管理署において、スギのコンテナ苗を植栽しました。

平成22年度についても、福島森林管理署での春植えをはじめ、棚倉森林管理署及び白河支署で秋植えを実施し、植付功程、植付器具による検討、大苗植栽による早期の下刈り終了等について、普通苗の植栽箇所と比較することによって、トータルコストでの検証を行うこととしています。

病虫・獣害対策については、地元自治体や住民の関心が高く、国有林にとって喫緊の課題であることから、被害対策に遅れが生じないよう状況

を的確に把握し、早期発見・早期対策に努めるとともに、国有林と連携した効果的な防除方法等が求められています。

近年、日本海側を中心に被害の拡大が危惧されているカシノナガキクイムシによるナラ枯れについては、これまで新潟県及び福島県の会津地方での発生にとどまっていましたが、本年8月に群馬県みなかみ町の国有林において発生が確認されました。これまで、関東地区での発生は確認されていなかったことから、当局としても群馬県と連携を図りながら対応していくこととしています。



おとり木法:誘引トラップ

谷川岳周辺(みなかみ町)に発生したナラ枯れ



クマによる造林木の剥皮被害

また、ナラ枯れ被害防止対策のための実証試験として、「おとり木法」(フェロモンを利用した誘引トラップ)による検証を会津森林管理署管内において実施しており、秋にはカシノナガキクイムシの穿入痕を調査し、翌年に対照地と枯損状況について比較検討を行い対策につなげていくこととしています。

シカやクマによる造林木の剥皮被害等も管内全域で発生しており、その被害区域も増加しています。これらの他に、国有林に隣接した

農地でニホンザル、イノシシ等による農作物被害も発生していることから、被害対策を効果的に進めるために関係市町村と連携した取組が必要となっております。

群馬森林管理署では「くくりわな」によるシカの捕獲や、静岡森林管理署、天竜森林管理署では「檻」設置によるクマ捕獲を実施しているところ

林道事業等

森林・林業再生プランにおいて、低コストな森林施業を行うための路

網整備が極めて重要な柱の一つに位置付けられています。施業可能な森林について、今後10年間で低コストな森林施業システムに必要な路網を整備し、ドイツ並みの路網密度を確保することとしています。

平成23年度林野公共事業予算要求においても、10ト積みトラックが通行できる「林業専用道」及び林業機械等が走行する「森林作業道」について新たに規格を創設した上で、これら簡易で丈夫な道に予算を重点化し、路網整備を加速化する内容となっています。

関東森林管理局としては、「林道等」作設の低コスト化を推進するため、管内全署の土木担当者を対象としたコスト削減検討会を開催するとともに、新任担当者に対する研修を実施しました。

平成23年度事業に向けては、国有林の先導となる公益的機能重視の施業の実施やその取組を率先して行うこととしています。



地形を考慮した継続的作業道



地域の小学生に森林環境教育

7月22日・23日に、新治小学校の「レッツ！サマースクール」が高原千葉村林間キャンプ場で開催され、この行事の一環として、22日に赤谷プロジェクト地域協議会及び赤谷森林環境保全ふれあいセンターが5年生56名を対象に森林環境教育を行いました。

これは、森林と人との生活が密接に関係していることや地域の自然の



熱心に話を聞く子供たち

豊かさを知ってもらうことを目的としています。

当日は、赤谷プロジェクトの紹介やフィールドマナーについて説明を行い、その後、キャンプ場内に設定した5つのテーマ①森林の利用、②森林の仕組み、③キノコの働き、④森に生きる動物、⑤アリジゴク)ごとに、森林の働きについて説明しました。

各箇所の説明は短時間でしたが、スギの葉を燃やすと線香と同じ香りがすることや、動物が食べ残したクルミの実を見てもらうなど、森を実感できるよう努めました。

最後に、「森林と人との生活が密接に関係していることや、自分たちが自然の豊かな素晴らしい地域に住んでいることが理解できた。」との感想もあり、来年も引き続き実施して欲しいとの言葉がありました。

今後も、地域の方々と共に「赤谷の森」について学んでいきたいと考えています。

「ムタコの日」における森林整備活動

8月8日(日)、赤谷プロジェクト地域協議会が主催する「ムタコの日」が開催されました。

「ムタコの日」とは、「赤谷の森」のムタコ沢にちなんで名付けたもので、身近にある森林に関心を高めてもらうことを目的として、平成19年度から年に2回、地域の方々が中心



力を合わせて森林整備

となつて様々な活動を行っています。今回は、森林再生講座と題して、昨年度に引き続き、ムタコ沢のカラマツ林で間伐作業と伐採した木を一定の長さにする玉切り作業を行いました。

当日は天気にも恵まれ、みなかみ町や前橋市などから35名の親子連れが参加しました。

作業の前に、間伐の必要性とその効果について説明した後、赤谷センター職員が安全に対する注意と伐採方法のデモンストレーションを行いました。

親子で力を合わせ作業を行っているなか、昨年も参加している子供は慣れた手つきで切っている様子も見られました。

ひとしきり汗をかいた後の休憩時間には、赤谷プロジェクト地域協議会が用意した五種類の水の飲み比べを行いました。

水道水やムタコ沢の水、ペットボトルで売られている外国の水など、名前を伏せた状態で試飲し、おいしいと感じた順に順位付けをしてもらったところ、多くの方が「ムタコ沢から採取した水が一番おいしい。」と回答し、水源となつているムタコ沢の大切さとおいしい水が豊かな森林の恵みであることを改めて感じていただくことが出来ました。

10月17日(日)には今年度2回目の「ムタコの日」の活動を行います。また、より多くの方々に森林への関心を高めてもらえる機会にしたいと考えています。



どの水が一番おいしいかな？

# 私と国有林

## 「関東の森林で保育間伐」

もりもりいくぞう隊 代表 斎藤 和利 (炭焼兵衛)

我々もりもりいくぞう隊は、平成17年、地球温暖化防止に果たす森林の役割が注目されてきた時期に、国有林の森林整備に少しでも貢献できればと、国有林のOBを主体に、趣旨に賛同する者も含めて結成しました。

当初7名からスタートした隊員は、現在、日光市、宇都宮市、鹿沼市在住の10名。各拍の特技や趣味からつけた、藪山早之進、山川猟漁、炭焼兵衛といった「あだな」で呼び



古賀志山



作業の打合せ

合う、気のあった仲間同士です。活動場所は、宇都宮市の西部に位置する古賀志山(標高582m)に至る登山道沿線の国有林です。この古賀志山は、自然に恵まれた都市近郊の身近な森林として多くの登山者が訪れる場所で、約210haの国有林は、自然観察教育林に指定されています。また、周辺地域を含む約500haは、「宇都宮森林公園」に設定されており、「少年自然の家」や、「キャンプ場」も整備されています。活動内容は、初回間伐の時期を迎えたス

ギ・ヒノキ人工林の保育間伐。自然を求めて訪れる登山者に、健全な森林を見てもらえるように、特に、登山者の目に触れやすい登山道沿線の林内を、間伐で明るくするように取り組んでいます。また、作業の実行に当たっては、全員がチェーンソー使用に関する講習を受け、また、栃木県緑化推進委員会からの助成金を活用して、ヘルメットや安全器具を充実させるなど、安全かつ効率的な作業に努めています。

作業現場は、登山道沿線の人工林のため、自分たちの安全確保以外に、登山者への注意・配慮に気を遣う面も多いのですが、一方で、登山者から、「ご苦労様」「大変なお仕事ですね」「森林の中が明るくなりましたね」など励ましやねぎらいの言葉をいただくなど、楽しいことも数多くあります。



隊員による間伐木の選木



保育間伐の実行

結成から5年間、梅雨や盛夏の期間などを除き毎月1回を目安に間伐を続けてきた結果、平成21年度までに実施した間伐面積の合計は、約13haとなりました。

森林整備を実施しているというやりがいと共に、退職後も国有林や署を始め、多くの方々とのつながりが続いていることを嬉しく思っています。

我々もりもりいくぞう隊も高齢化し、平均年齢67歳。この先何年活動できるのか先行きの見通しは立ちませんが、微力ではありますが、長年関わった国有林に少しでも恩返しができる、他署でもこのような活動が進むことを期待し、森林管理署のご指導を得ながら、少しでも長く活動したいものと願っております。

# 森づくりの最前線

上越森林管理署 妙高森林事務所 森林官 栗本 誠一



新緑の関田山脈

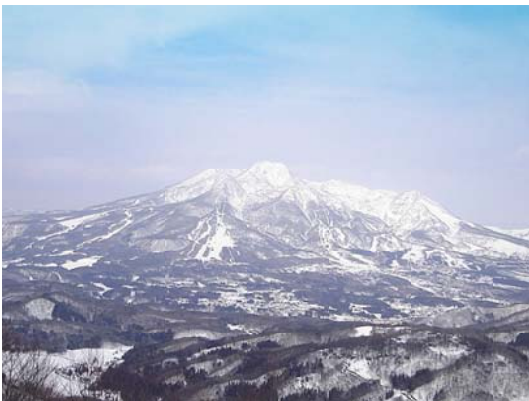
私の勤務する妙高森林事務所と兼務する高田森林事務所は、新潟県の最南部に位置する上越市、妙高市と十日町市の一部を管轄しており、その多くの国有林は長野県との県境付近にあります。国有林面積は妙高森林事務所約11千㍉、高田森林事務所約8千㍉と合わせて約19千㍉あり、そのうち人工林の面積は1割弱で多くが天然林となっています。また、区域のほとんどは自然公園に指定されています。

上越といえば豪雪地帯として有名ですが、近年は昔に比べ降雪量は少なくなっているというものの、事務所付近では1㍎を超える積雪があります。

管内には、10のスキー場があり、近年は、スキーやスノーボードで樹林帯の内部を滑走するツリーランが人気で、各スキー場では禁止区域での滑走者への対策に苦心しています。

管内には、深田久弥が記した日本百名山のうち火打山、妙高山、高妻山があり、一昨年には全長80キロメートルを超える信越トレイルが完成し、登山・トレッキングを楽しむ多くの方々に利用されています。

また、妙高市は森林セラピー基地として整備を進めており、国有林内でも笹ヶ峰自然休養林内の歩道がセラピーロードとして登録されています。



冬の妙高山

(左から杉ノ原・池の平・赤倉周辺スキー場)

今年、平成23年度から5年間の事業実施に係る森林計画策定時期にあたり、それに合わせ、管内をつぶさに見て回りましたが、雪のせいか生長の思わしくないところもあり、そうした取り扱いが難しいところがあります。

また、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害については、数年前まで多く発生していましたが、最近では、それも一段落してきました。今年の春先から妙高山周辺でブナの葉が枯れる被害が発生しており、夏時期に入ると同様の被害が高田事務所管内の関田山脈方面でも確認されました。原因はまだ調査中であり、注意深く監視しています。



信越トレイル

現在、森林への期待は、地球温暖化防止への貢献や貴重な動植物の生息の場としての働きなど多様化し、より一層の公益的機能の発揮が求められています。一方では、先人は森林を資源として無駄にせず利用してきた歴史があり、最近では、木質バイオマスやペレットとしての利用促進など資源としての森林の価値は高まってきているものと思います。

森づくりの最前線としてニーズに合った管理を目指していきたいと思っております。



秋の妙高山

# 管内の百名山 「飯豊山」



御前坂付近から望む(右から飯豊山・大日岳・牛首山)



御秘所付近から望む(右から飯豊山・御西岳・大日岳)

新潟・山形・福島にまたがる飯豊連峰は、主峰、飯豊山(飯豊本山)(標高2,105㍍)を中心に、最高峰の大日岳(標高2,128㍍)、御西岳(標高2,013㍍)、北股岳(標高2,025㍍)、烏帽子岳(標高2,017㍍)など、標高2,000㍍級の峰が連なっています。

飯豊山は、古くから信仰の山として知られていますが、その山頂付近については、飯豊神社の所領権をめぐり米沢藩と会津藩、新潟県と福島県の争いがあったと言われており、明治4年の廃藩置県後に、新潟県に編入されましたが、飯豊山の南東麓の福島県側から山頂を経て御西岳に至る登山道付近と山頂付近は福島県喜多方市となっています。

飯豊山への登山ルートは、新潟県側からは、実川登山口(阿賀町)から大日岳を通るルート、福島県側からは、奥川・弥平四郎登山口(西会津町)から三国岳を通るルートや一ノ木・川入登山口(喜多方市)からのルートなどがあり、一般的には、一泊二日の行程となりますが、四季折々の景観を求め多くの登山者で賑わいます。



飯豊山付近に咲く「イイデリンドウ」

飯豊連峰周辺は、急峻な山岳と緩やかな稜線で形成され、山地帯にはブナを主体とする天然林が、また、稜線部は高山植物のお花畑などが広がっており、原生的な自然と山岳景観を併せ持ち「磐梯朝日国立公園」に指定されています。

下越森林管理署は、この豊かな自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存や学術研究などを目的に、周辺の国有林を「飯豊山周辺森林生態系保護地域(15千㍍)」に指定し、豊かな自然を後世に伝えるため、貴重な野生動植物の生息環境に配慮しながら適切に森林の維持管理を行っています。

(下越森林管理署広報広聴連絡官)

## 参加者募集

### マツ林の森林整備

美しいマツ林を つくってみませんか?

下越森林管理署では、新潟県胎内市乙大日裏国有林内での森林整備(マツ林の雑木の除去作業)の参加者を募集します。



実施日 平成22年10月23日(土曜日)  
実施場所 新潟県胎内市乙字大日裏国有林内  
参加資格 小学3年生以上とその保護者及び一般市民

募集人員 30名(応募者多数の場合抽選)

参加費 100円(傷害保険料代)

募集締切 平成22年10月12日(火曜日)

お申し込み・お問い合わせ先

下越森林管理署 流域管理調整官

〒957-0052 新発田市大手町4丁目4-15

電話番号(0254)22-4146

詳細は、「じつりせい」をご覧ください。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kaetu/news/pdf/20101023.pdf>

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課

TEL (027) 210-1158  
FAX (027) 210-1159